琉球大学学術リポジトリ

沖縄戦後住宅における建築家仲座久雄の活動

メタデータ	言語: ja 出版者: 琉球大学 公開日: 2019-05-22 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 金城, 春野, Kinjo, Haruno メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/44475

（様式第３号）

論　文　要　旨

論　文　題　目

沖縄戦後住宅における建築家仲座久雄の活動

本研究の目的は、沖縄戦後復興において重要な役割を果たした建築家の一人である仲座久雄の住宅設計活動を通して、戦後沖縄近代建築の展開の一端を解明することである。

第１部の「規格住宅の計画と供給」では、1945 年末に仲座が設計したプレハブ式応急住宅の計画背景、設計内容及び供給体制の詳細を把握し、大量かつ迅速な供給の実態を明らかにすることを目的とした。研究方法は、文献調査を主とし、沖縄県公文書館所蔵の米軍政府資料、仲座の手記、沖縄民政府工務部関係者による文献を参照した。また、建設状況を検証する為、当時の写真を収集した。その結果、規格住宅が大量かつ迅速な供給を果たした主な要因として、①住民によって容易に建設できるプレハブ式であったこと、②資材不足に柔軟に対応でき、現地の状況に応じた仕上げ材の選択が可能な設計であったこと、③仕入れ、加工、発送の全てを一括して賄え、かつ直接予算執行を行える行政体制で運営されたこと、の３点を得た。

第 2 部の「コンクリート住宅普及黎明期における建築活動」では、仲座のコンクリート住宅普及活動の展開過程を明らかにすることを目的とした。研究方法は、遺族から提供を受けた仲座久雄に関する資料、沖縄県立博物館主催の仲座の文化財保護活動に関する企画展出版物、沖縄建築士会機関紙を基礎資料とし、関係者等の経験談が掲載された出版物及び、遺族、元所員への聞き取りにより補足した。その結果、仲座久雄はコンクリート住宅普及活動に技術面（設計）、広報面（執筆などによる啓蒙）、経済面（金融政策への要請）、教育面（士会での建築士の育成）の多方面において尽力し、普及黎明期の主要な基盤を形成していったことを明らかにした。

本研究では、戦後沖縄復興期における仲座久雄の住宅設計を通して、戦後沖縄近代建築の成立過程は、米国占領下における先進技術の一方的な享受のみでなく、地元建築家による地域の事情に根ざした取り組みも相乗して近代化を辿った経緯を明らかにした。

氏　名　　金城 春野